

# FD NEWS LETTER

自己点検・評価実施委員会

No.15



**FD（ファカルティ・ディベロップメント）**とは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称です。本学では、授業アンケート、FD講演会など、各種FD活動を実施しています。

今回は、2023年度活動実施内容等についてお届けします。

『FDニュースレター』は、年次報告として、FDに関する情報を取り纏め、情報を共有することにより、それぞれの活動を組織的な活動へと発展させるための一助として発行しています。

## 2023年度 活動実施報告

### FD講演会等の実施

（※組織的なFDとするために、各種委員会等と協働して開催）

- ☆全学FD研修会 2023/7/15
  - ☆全学FD研修会 2024/2/29
  - ☆大学院FD研修会 2024/2/29
- をそれぞれ開催いたしました。

### 新規採用教員説明会

☆新任教員に対し、本学の建学の理念や教育研究に対する考え方、ディプロマポリシーの説明等、本学の教員として必要な事柄等に関する説明会を4/3に実施しました。

### 大学教育学会への参加

- ☆大学教育学会第45回大会（6/3-4）  
参加者1名（詳細はNo.14に掲載）
- ☆課題研究集会（11/11-12）  
参加者1名（詳細はp.4）

### 公開授業

☆公開授業を実施しました。

「法学B/法学概論B」11/10, 12/7

担当者同士で、相互に授業を参観し、各自の工夫、取り入れたい観点など報告書をまとめ、共有しました。

### ティーチング・ポートフォリオ導入

☆今年度から専任教員を対象にティーチング・ポートフォリオ（TP）を導入しました。昨年度のFD講演会で体験したTPチャート作成を参考にして、まずは任意活用の形から始めています。

### 学生による授業アンケート(Web形式)

☆春学期：2023/7/10-7/22  
秋学期：2023/12/10-2024/1/21  
昨年同様、全学年を対象に、Webアンケート形式にて実施しました。  
（詳細はp.2）

### 教育改革に関するプロジェクト

- ☆今年度は5件のプロジェクトが実施されました。
- ・2024年度国際政治経済学部実施の基礎ゼミにおける共通教材開発、およびマニュアルの作成
  - ・文学部基礎ゼミナールFD
  - ・韓国語教員FDワークショップ
  - ・2024年度授業にむけた中国語教員によるFDワークショップ、情報交換会
  - ・2024年度に向けての英語教育FD

### 各種FD活動の報告

☆今年度は、基礎ゼミ担当教員、各外国語担当教員、教職課程担当教員をはじめとするFD活動報告がありました。

## 2023年度 学生による授業アンケートについて

全学年を対象に、要件を満たす授業\*について、Webアンケート形式にて実施しました。

\*個人が特定されないようにする配慮のため、履修人数が5名以下（大学院科目では4名以下）の科目は対象外とするなど一定の要件を設けています。

		春学期	秋学期 (通年科目含む)
実施科目数		学部科目 523 大学院科目 10	学部科目 667 大学院科目 13
実施 教員数	専任	68名	68名
	非常勤	165名	163名

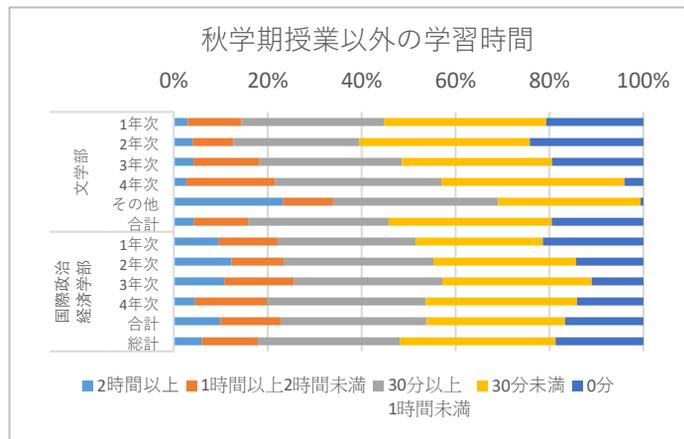
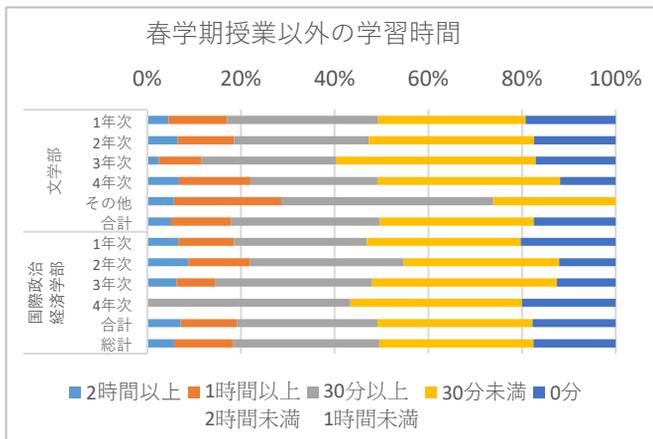
春学期の回答率は、学部32.2%（2022年度春学期：32.6%）、大学院38.1%（同：37.5%）。秋学期の回答率は、学部23.2%（2021年度秋学期：22.7%）、大学院34.5%（同：24.4%）でした。授業の最終回に10分程度アンケート回答時間にしていただくなどの工夫をしましたが、回答者数を伸ばすには、さらなる声かけが必要であるといえます。

今年度から、学生向けコメントをWeb上のアンケートシステムで公開できるようにしました。これにより学生はアンケートに回答することで、直接教員からのフィードバック等の内容を確認することができるようになりました。

教員は学生からの評価や意見を聞き、授業の内容や進度、運営などを顧みることによって、授業のさらなる改善に取り組んでいきます。

授業アンケートでは、学生の学修時間・学修行動の把握を行うため、以下のような設問を設定しています。各学年における今年度の春・秋学期を通しての学修時間の集計を毎年行っています。

A-3 あなたは1回の授業に対し、平均してどの程度予習・復習・関係文献の読書などの授業時間外の学習をしましたか。『授業時間外の学習』には、授業で課された課題・宿題、授業内容に関連して興味を持った記事・文献・図書等の読書、なども含まれます。



大学設置基準には「一単位の授業科目には45時間の学習時間が必要である」と記されています。一単位の授業時間を15時間とすると、授業時間以外の学習時間は30時間です。現在多くの授業科目は1科目につき2単位を付与していますから、90時間の学習時間が必要となります。

つまり、2単位の授業科目の場合、授業時間は30時間、授業時間以外の学習時間は（90時間－30時間で）60時間の学習時間が必要となります。授業は各学期とも15週行われますから、60時間÷15週＝4時間となり、1回の授業について事前・事後学習はそれぞれ最低2時間必要となります。

オンライン授業やオンデマンド授業を主に開講していたコロナ禍の年度の授業アンケートでは、授業での毎回の課題に取り組む時間を確保していたといえますが、対面での授業再開や課外活動の制限が緩和された以降は、授業以外の学習時間の減少傾向が顕著です。

大学教育のユニバーサル時代を迎えたとされる現代では、学力や学習スタイルが十分に形成されていない学生が入学することにも配慮し、学生のモチベーションを向上するような授業の工夫や、シラバスに必要な事前事後学習のヒントを記載するなどを実施しています。また、本学では、ラーニングコモンズやPCルームなど自習できるスペースを整備し、情報端末を1台ずつ配付するなど学生の授業外学習をサポートしています。

## 2023年度 学生による授業アンケートについて

2023年度春学期に行った学生による授業アンケート結果に対する授業担当者のコメントシートから授業改善への取り組み事例を抽出して、大学全体レベルの授業改善の取り組みとして共有しました。

以下、コメントに挙げられた各教員の取り組みの事例の一部をご紹介します。

授業科目によって回答数に多寡がありますが、教員が教育効果の手応えを感じたり、授業運営の改善点を見出したり、学生の学修成果や意欲を向上させるヒントを得られるとして授業アンケートは重要な教育改善の機会となっています。

2023年度春学期に実施した授業アンケートにおいて、教員からのコメントシート回収数（回収率）は、専任教員：31名（43.7%）、非常勤教員：92名（56.1%）でした。

前年度はコロナにより学生の発音を近くで確認することがあまりできなかったが、今年度春学期は一人一人の発音を確認するようにした。個別に話をすることで、理解できていないところを把握することもできた。

課題について自分の考えをまとめる時間を確保し、グループで話し合う時間を確保し、友人の考えも記入するようにした上で、違うグループの友人の討論を行って考えを深めるようにした。

リアクションペーパーは-googleフォームで集め、回答の一部や質問は授業冒頭で取り上げた。長い文章を書く場合、学生にとって手書きで入力するよりも負担が少ないため、多くの意見が集まった。

毎回、個人ワーク、グループワークを行い、手書きの振り返り課題を提出するスタイルとしたところ、積極的な講義参加が増えた。

毎回、受講学生にマイクを向け、発言する機会を設けましたが、物怖じせずに堂々と発言する学生が多く、学生どうしで刺激を受け、学びが深まりました。このような信頼関係を今後も維持していきたいと思います。

3年次対象の専門性の高い科目と、2年次対象の入門科目で、学生の理解度に大きな開きがあるように感じて、それぞれの講座での話し方や進め方を意識的に変えてきた。そのことが両方のクラスにおいて好意的に受け止められていたことが確認できた。

学期の初めや新しい内容に移行する時きめ細かに受講者の意見を聞いて1人1人学習効果が上達できる内容を決めるようにします。また随時質問や確認できるよう、気軽に連絡するように呼びかけたいと思います。

課題の設定および実施回数、授業内での活動の見直し等をおこない、アウトプットの機会を増やすことを検討したいと思います。

## 秋学期全学FD研修会

2024年2月29日（木）午前に秋学期全学FD研修会を開催しました。  
当日は、教員59名・事務職員6名が参加しました。

2024年2月29日（木）10:30～12:20

プログラム①『何故令和の教育改革なのか、GIGAスクール構想なのか  
～教員養成課程への期待を込めて～』

武藤 久慶氏

（文部科学省 初等中等教育局 修学支援・教材課課長  
学校デジタル化プロジェクトチームリーダー）

プログラム②『大学教育学会 2023年度課題研究集会参加報告』

五月女 肇志 文学部教授

### 【秋学期FD講演会を終えて】

文部科学省から武藤久慶氏を講師に迎え、国の施策であるGIGAスクール構想について、世界の中での日本の教育の現状などトピックスに分けながら、何故その必要があるのか、これからどのような方向へ進むのかなどについて豊富なデータに基づく講演が行われました。それらの教育を受けた子ども達が、数年後には大学に進学してくることを踏まえ、多くの教員が課題を感じ共有した有意義な講演であったと感想を寄せています。

五月女教授の報告では、研究集会のうち「学士課程の卒業研究の方法」に関する内容が興味深かったという感想が多く集まりました。本学でも卒業研究の指導を行っています。他大学の事例を参考とし、その重要性和質保証の在り方について多くの参加者が共感していました。



## 大学院FD

全学FD研修会と同日の2024年2月29日（木）午後大学院FD研修会を開催しました。  
当日は、登壇者を含め教員57名が参加しました。

2024年2月29日（木）13:30～14:30

研究科合同ディスカッション

『外国人留学生の受け入れと研究指導に関して』

進行	山口 直孝 教授	（文学研究科長）
話題提供	松本 健太郎 教授	（国際日本学研究科長）
コーディネーター	伊藤 晋太郎 教授	（文学研究科）
	小久保 欣哉 教授	（国際政治経済学研究科）
	谷島 貫太 准教授	（国際日本学研究科）



3研究科合同ディスカッション形式で行われた大学院FDは、「留学生指導」をテーマとし、話題提供を受けたコーディネーターによるコメントが行われ、各研究科に共通する問題点が共有された。またAIの活用などが提案されるなど、新しい見解も共有されました。

事後の感想では、普段はなかなか研究科を超えて議論することがなく、良い時間を持てたとのこと意見が多く、今後もこのような形式での議論の場が設けてほしいという要望も多くなりました。オンライン参加者からは、発言者を追うカメラで会場の様子が映し出された点が良かったという声があり、参加しやすい環境整備も重要であると感じました。

